

東北整備局と
宮建協が開催 「将来の進路選択の一つに」

東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城県建設業協会(佐藤博俊会長)は13日、名取川災害復旧工事閉上第6工区(宮城県名取市)で仙台市内の中学生を対象とした土木現場の作業体験を開催した。建設業界の担い手不足解消に向け、将来の進路選択の一つとして建設業に興味を持つてもらおうと計画したものの。これまでも土木を学ぶ高校生や大学生のインターンシップなどを行ってきたが、進路が定まっていない中学生の現場作

中学生が現場作業を体験



測量機械の使い方を教わる鈴木君



クレーンに指示を出す田中君

業体験は初の試みだ。

今回、作業を体験したのは仙台市立柳生中学校に通う中学2年生の鈴木悠矢くん(14歳)と田中秀汰くん(14歳)。2人は、10日から14日まで、仙台河川国道事務所で職場体験を行った。作業体験の舞台となったのは、東日本大震災で被災した名取川河口部の治水安全度の向上を目指し、嵩上げによる強化を施した新たな堤防を築造しているもの。施工は橋本店が担当しており、盛土をほぼ終え、現在

は海岸コンクリートブロックによる護岸工を進めている。当日ははじめにコンクリート

ブロックの誘導を体験。鈴木くんがパソコンのモニターを確認しながら据え付け位置を田中くんが指示、田中くんがクレーンオペレーターに指示を伝え、正しい位置へと誘導した。その後は測量機械を使った宝探しに参加。2人で競い合いながらの宝の位置測定を通じて機械の扱いを学んだ。

体験を終え、鈴木くんは「将来の進路はまだ決めていないが、ほかの人のためにがんばる建設業を選択肢の一つにしたいと思う」。田中くんは「日本地図にも乗るような巨大な施設をつくる建設業にもやりがいを感じた」と話した。

中本一現場代理人は「現場は情報化施工が進み技術がどんどん発達している。コンピュータに慣れた若い方々が知識を生かし、業界の発展に貢献してもらえれば」と期待を込めた。

なお、仙台河川国道事務所では今後、28日にも仙台湾南部海岸復旧工事の現場で中学生の体験学習を予定している。